

外郭団体ミッション遂行評価票

【令和5年度活動計画】

団体名		北九州エアターミナル 株式会社		所管課		港湾空港局 空港企画課			
団体に対するミッション				行財政改革大綱における見直し内容					
市等との連携による路線誘致等、利用者数の増加に向けた取組を進め、安定的な財務状況を維持し、公共性の高い空港ターミナルビルを安全かつ快適な空間として、航空会社や航空旅客に提供する。 旅客については、路線の拡大等、航空会社の動向に合わせ、的確な施設の増強や改造を行い、市等との連携による路線誘致に繋げる。 また、増加する貨物需要に対応した貨物関連施設の整備、物流管理など物流拠点空港を目指した機能強化に取り組む。 さらには、空港ターミナルビル内を活用し、イベントや展示を行い、地域のにぎわいの場としての役割も果たしていく。				今後も、空港ターミナルビルの管理運営の役割を担う経営主体として、長期的に健全な経営を維持する必要があるため、本市等との連携による路線誘致等、利用者数の増加に向けた取組を進める。					
ミッションに基づく中期計画									
3～5年後に 目指す状態		新規就航路線を誘致し、貨物取扱量を増加することで、利便性の高い空の玄関口としての機能向上を図るとともに、にぎわいの創出により、空港の更なる利用促進を目指す。							
主な成果指標		年度ごとの目標及び実績（太枠は最終目標年度）							
		R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 目標 実績		R6 目標	R7 目標
就航路線（国内旅客）		3路線	2路線	2路線	1路線	2 路線	1 路線	2 路線	
就航路線（国際旅客）		6路線	0路線	0路線	0路線	3 路線	1 路線	3 路線	
貨物取扱量		9,255 トン	15,384 トン	21,819 トン	17,432 トン	30,000 トン	12,033 トン	25,000 トン	
空港入館者数		216万人	59万人	85万人	128万人	120万人	170万人	130万人	
ミッションの遂行状況の評価（令和5年度）									
団体における 評価		新型コロナウイルス感染症の5類移行や円安を背景に、インバウンドや国内旅客の回復が続く状況において、北九州空港においては、国内線旅客数は約1,062千人と前年度比127%であったが、コロナ禍前の平成30年度に比べると74%であった。国際線は、令和5年5月より3年ぶりに韓国定期便が再開するなど、チャーター便を加えた国際線旅客数は約114千人であった。（平成30年度比33%） 国内航空貨物は、年間取扱量が約2,200トン（前年度比96%）。国際航空貨物は、世界的な海上輸送の混乱等により起きた貨物の航空シフトが、海運回帰の影響を受け約9,800トン（前年度比65%）であった。 年間のターミナルビル来館者は約170万人、駐車場利用台数は約27万台と、どちらも前年度より増加した。 このような中、行政や関係団体と連携し、集客対策や旅客サービスの向上、貨物事業者の支援等に努めた。			市の評価		旅客については、令和5年5月にコロナ禍を乗り越え、国際旅客定期便が再開を果たした。一方で、ハンドリング人材の不足などから就航路線（国内・国際）の目標は達成できていない。チャーター便の運航はあり、こうした需要を路線就航につなげていく必要がある。 空港入館者数は増加し、目標を大きく上回った。コロナ禍前の数値にはまだ至らないものの、順調に回復しつつある。 貨物取扱量については、世界的な貨物市況の停滞により、目標は達成できなかった。令和6年4月から就航を開始した国内貨物定期便により、今後は増加が見込める。 引き続き、物流拠点化空港の実現に向けて、滑走路延長を起爆剤とした取組を進めていく必要がある。		
今後の課題及び見直し内容（案）					団体への改善指導内容（案）				

その他～「行財政改革大綱における見直し内容」の取組み状況	
見直しの分類	－
昨年度に引き続き、路線の維持・利用者数の増加に向けた取組みを進める。	

ミッションに基づく具体的取組み（令和５年度）										
1	目的（目指す状態）					活動計画（どうやって目的を達成するか）				
	就航路線の維持・拡大や新規路線の誘致に取り組み、利便性の高い空の玄関口としての機能向上を目指す。					利用者ニーズに適した空港施設・機能、サービスの提供を通じて、新規路線の就航につながるチャーター便を誘致する。				
	成果指標	R3年度実績	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績	活動指標	R3年度実績	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
	就航路線（国内）	2路線	1路線	2路線	1路線	旅客チャーター便数（国内）	15便	14便	82	10
	就航路線（国際）	0路線	0路線	3路線	1路線	旅客チャーター便数（国際）	0便	44便	322	284
2	目的（目指す状態）					活動計画（どうやって目的を達成するか）				
	物流ニーズに対応した施設・機能の高度化及び体制の整備を図ることで、北部九州地域におけるものづくり産業の発展を支える航空貨物の物流拠点をを目指す。					航空貨物の取扱いが円滑に行えるよう、拡充した貨物上屋を活かした通関体制の構築や貨物取扱機材の整備・充実を行う。また、新規路線や貨物チャーター便を誘致する。				
	成果指標	R3年度実績	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績	活動指標	R3年度実績	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
	貨物取扱量	21,819トン	17,432トン	30,000トン	12,033トン	貨物チャーター便数	31便	27便	28便	26便
3	目的（目指す状態）					活動計画（どうやって目的を達成するか）				
	公共性の高い空港ターミナルビル等の施設を安全かつ快適な空間として提供するとともに、新たなにぎわいを創出することで、空港の利用促進を目指す。					空港施設内において、イベントや展示会を開催するなど、空港の利活用を推進し、新たなにぎわいを創出する。				
	成果指標	R3年度実績	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績	活動指標	R3年度実績	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績
	空港入館者数	85万人	128万人	120万人	170万人	イベント・展示会等の開催	18回	25回	20回	18回